

イオンモール札幌平岡を舞台に、清田区で活動しよう!



ワークショップに参加して、清田区のこれからをたのしもう!

アットホームストア プロジェクト

イ

説明会

2021年3月19日(金) 19:00 ~ 20:30
3月20日(土) 10:00 ~ 11:30

イオンモール札幌平岡では「家のような居心地のよいお店」へと変わるために、みんなでアイデアを話し合い、実現していくためのワークショップを開催します。今回はこれからのお店づくりの構想をお伝えし、ワークショップに参加してくれる人を募集するための説明会を開催しました。



01 プロジェクトの説明

清田区役所のあるエリアを「地域交流拠点 清田」と位置づけていますが、建物が比較的新しく、建替え更新の機会を使った機能集積が進んでいません。イオンモール札幌平岡の機能拡充に合わせて、イオン北海道さんと一緒に賑わいや交流創出に向けた『清田』エリアの機能向上の取り組みを進めていきたいと考えています。



札幌市政策推進課 伊藤氏

まちの抱える課題に対して、民間企業だからこそお手伝いできることがあると考えています。笑顔があふれ、日常的ににぎわうショッピングセンターをつくるために、私たちだけが考えるのではなく、計画や企画の段階から地域のみなさまと一緒に考えたいと思っています。

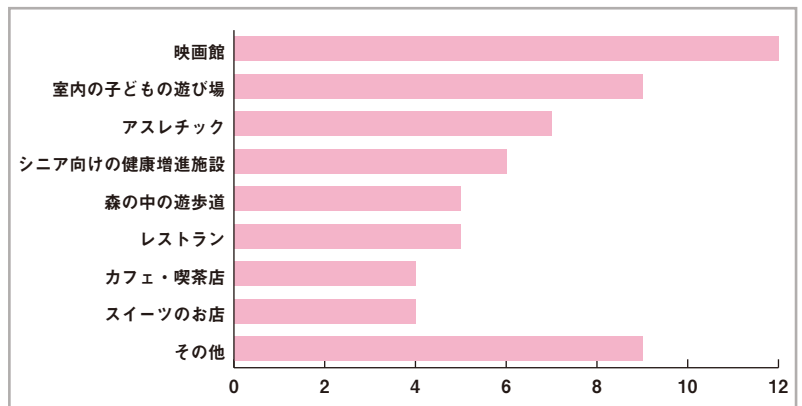


イオン北海道(株) 栗原氏

02 ヒアリング調査・店内調査の報告

■ ヒアリング調査

イオン札幌平岡店のスタッフ33名(女性87.9%、男性12.1%)に向けてヒアリング調査を実施しました。お話を伺ったスタッフの多くが清田区及び周辺にお住まいの方で、イオンモール札幌平岡には、映画館や室内の子どもの遊び場、シニア向けに運動できる設備が新たにほしいという意見が聞かれました。



■ 店内調査

12月に実施した店内調査では、買い物をする、ポイントを貯めるための「目的達成型」、家族で複数のお店をぶらぶらしながら目的なく店内を散策する「散策型」のお客さまがいることがわかりました。また車椅子ユーザーの方が多いこともわかりました。

目的達成型	<ul style="list-style-type: none"> ・買いたいものがあるなど、特定の目的に向かって任務を遂行する ・滞在時間も短く、無駄のない動きが特徴
散策型	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の目的はないが、店内を散策している ・家族や親子で複数のお店に立ち寄りながら買い物を楽しんでいる
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子ユーザーでも利用しやすい店舗設計とサービスがある

03 参加者の自己紹介

参加者のみなさんがどのような想いをもって参加されたのかをうかがいました。

- ・お店にはよく買い物に行きます。清田のまちがどうなるか楽しみで参加しました。
- ・行政とイオン北海道が一丸となって取り組むプロジェクトに期待しています。
- ・知人の紹介で参加しました。色々と勉強したいと思い参加しました。
- ・チラシを見て参加しました。けん玉を多世代で楽しめる機会をつくりたいです。
- ・医療介護関係の仕事をしていて、多世代交流に興味があり参加しました。 など



04 事例紹介

このプロジェクトをお手伝いしている studio-L の全国のプロジェクトを紹介しました。

泉佐野丘陵緑地（大阪府泉佐野市）

2014年に開園した府営公園です。2009年から公園ボランティアを育成する「パークレンジャー養成講座」を始めました。「いつまでもつくり続ける」公園として、開園前から府民と行政が協働してつくる公園として計画されました。開園後の現在もパークレンジャーが活躍し、協働による公園づくりが続いています。



マルヤガーデンズ（鹿児島県鹿児島市）

天文館地区は昔から市の中心地でしたが、鹿児島中央駅が離れたところに立地し、まちの活気が失われつつありました。2010年に「マルヤガーデンズ」という10層のフロアからなる商業施設がオープン。各階に「ガーデン」と呼ばれるオープンスペースがあり、地域のコミュニティが様々な活動プログラムを展開しています。



立川子ども未来センター（東京都立川市）

旧市役所跡地を改修し、子育て、教育、市民活動、文化芸術活動を支援するとともに、イベント実施などによって地域のにぎわいを生み出す複合施設です。市民活動コーディネーターが常駐し、立川市がマンガの聖地であることにちなんだ市民によるプログラムや、企業や商店街などと連携した取り組みも進めています。



05 感想共有

事例紹介を聞いての感想や質問したいことなどを、近くの人同士で話し合いました。

感想

- ・泉佐野丘陵緑地の事例を聞いて、長年にわたって活動を続けていけるのがすごいと感じた。
- ・世話好きの人が多から、リタイア後の活躍の場をつくるとよいのでは。
- ・マルヤガーデンズの売り場にしないスペースを店内につくる発想が面白い！
- ・子ども未来センターには子どもたちがよるこぶ仕掛けがたくさんあった。もっと話を聞きたかった。
- ・清田区内の公園で活動している団体が色々あるので、イオンの森を活用できたらどうか。
- ・まちの人たちの意見を聞きながら、お店づくりを進めることにとっても期待！楽しみ！
- ・イオンモールの中で多世代交流の場をつくりたい！

質問

みなさんからの質問に studio-L 代表山崎が回答しました。

- Q. イオンでも書道教室のお披露目をしているが、マルヤガーデンズでのプログラムと何が違うのか？
- A. 活動している自分たちが楽しいだけではなく、来店するお客さまに楽しさを提供する活動を目指すことが重要。
- Q. やりたいと思える、人をその気にさせる方法は？
- A. 行動経済学という考え方があり、人の気持ちを動かすにはお金を渡すか楽しさを渡すかのどちらかだと思っている。一方で市民活動では、正しさを渡そうとしてしまう。日々の話し合いや活動でも楽しさ(おいしい、かわいい、かっこいいなど)を意識して空間づくりや道具を考えてみる。



studio-L 代表 山崎